

新紙へいについて

一宮南部小・5 森田 理彩

わたしは七月三日に発行された新紙へいについて調べました。新しいお札に興味をもった理由は、終業式るとき、校長先生が新しいお札が発行されたことについてのお話をしてくださって、どうして新しいお札を作るのか、気になったからです。調べてみると、新紙へいを出す主な理由は、紙へいのぎ造を防止するためです。新紙へいの発行はおよそ二十年ごとに行われています。二十年経過すると、複写など、印刷技術が進み、にせ札が作りやすくなるからです。

また、今回発行された、細きん学者の北里しば三ろうと、かつしか北さいの神奈川おきなみうらが印刷されている新千円札と、教育者のつ田梅子と日本固有の野田富士が印刷されている新五千円札と実業家のしぶさわ栄一と重要文化財の東京駅が印刷された新一万円札にもぎ造防止や使いやすくするために、さまざまな新しい技術が導入されています。

一つ目は、3Dホログラムです。3Dホログラムとは、物体光という光を利用した画像投えい技術で、特定の物体をさつえいデータ化し、特しゆなディスプレイに投えいすることで、まるで、実物が目の前にあるかのような立体的なしょう像ができることです。立体的なしょう像なので、コピー機では、表せないようになっていきます。お札に採用したのは世界初です。

二つ目は、すかしです。すかしは今までのお札にも入っていました。

たが、しょう像のみでした。しかし、新しいお札には、しょう像のはいけいにも小さなようが入っています。このことを高精細すき入れといいます。とても細かい線でこう成されているので、ぎ造をよりこんななものにしてぎ造防止をしています。

三つ目は、ユニバーサルデザインです。ユニバーサルデザインとはしょうがいの有無、年れい、性別、人種等に関わらず、多様な人々が利用しやすいよう、都市や生活かん境をデザインする考え方のことで、だれでも平等に使いやすくなっていて、マークが印刷されている場所のちがいなど、手ざわりで何円札分かるように、工夫がほどこされています。

それ以外にも、これまでのお札には表面の目立つところに漢数字で金額が印刷されていましたが、新しいお札では、漢数字に変わって、アラビア数字で、大きく印刷されていることになりました。これも、ユニバーサルデザインで目が不自由な人や、海外から来た人にも分かりやすく、お札を使えるように考えられた技術です。

新紙へいにえがかれた人物たちも調べてみました。新一万円札のしぶさわ栄一は、実業家で、埼玉県のゆう福な農家に生まれました。十五代将軍、徳川よし喜に仕えたことがあり、現在の財務省である、大くら省を辞めた後、実業界で活やくし、第一国立銀行、大阪ぼう績会社など約五百の会社の設立や経営に関わり「近代日本資本主義の父」「近代日本経ざいの父」とよばれています。しぶさわ栄一は九十一さいまで長生きをして、たくさんの活やくをしていて、かっこいいと思いました。

新五千円札のつ田梅子は、教育者で一八七一年、六さいの時に最初の女子留学生として岩倉使節団に同行し、アメリカに留学帰国後

は、千九百年に現在のつ田じゆく大学である女子英学じゆくをそう設し、女子教育に力を注ぎました。もし、わたしが保育園児か小学一年生のときに、海外に留学をしたと考えると、いかにたくさんの努力を積み重ねていたのかがわかり感心しました。

新千円札の北里しば三ろうは、細きん学者でドイツに留学し、結かくきんを発見したコッホに学び、破しよう風の結成りよう法を発見しました。帰国後伝せん病研究所設立、一八九四年香港にわたり、ペストきんを発見。黄熱病を研究した野口英世や赤りきんを発見した志賀潔などを育て、「近代日本医学の父」とよばれています。前の千円札のしように像になった野口英世に教えているほど、頭も良く、たくさんの人を助けた、素晴らしい人だと思いました。

今回調べてみて、新しいお札にはぎ造防止のためにたくさんの技術がふくまれていることが分かりました。それに、「ユニバーサルデザイン」のように、海外の人、しようにがいをもっている人など、だれでも使えるように作られていて、お札にこんな技術があると知っておどろきました。今まで作られてきたお札にも、どんな面白い工夫があるのか知りたくなりました。今後作られていくお札にも、たくさんのぎ造防止や世界のだれもが使いやすいように工夫された技術を使って、よりぎ造をこんなんにさせて、通貨ぎ造をしようとする人までゼロになることを願っています。